



第3回 形原地区

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

日 時：令和4年11月6日（日）

午後1時30分～午後4時30分

主 催：蒲郡市

会 場：形原中学校 多目的室 ほか

プログラム

開会	1：30
事務局から説明	1：35
・ワークショップの趣旨・目的 ・進め方とスケジュール ・前回ワークショップでのご意見 ・ご質問等への回答 ・地区利用型施設再配置プラン案について ・評価の視点 ・本日の検討内容	
(休憩)	2：20
グループ討議	2：30
発表	4：00
事務連絡	4：25
閉会	4：30

<目次>

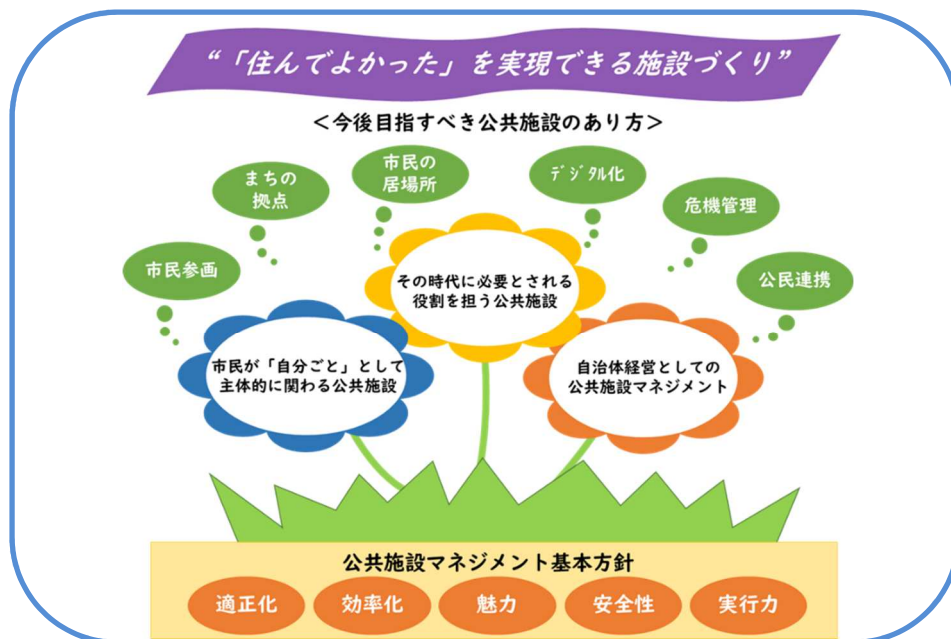
・ ワークショップの趣旨・目的	1
・ 進め方とスケジュール	2
・ 第2回ワークショップの結果概要（案）	7
・ 第2回ワークショップふりかえりシートご意見	14
・ かわらばんなどからいただいたご意見	15
・ ご質問等への回答	16
・ 形原地区の課題と課題解決に向けた方策	18
・ 再配置プランの考え方	19
・ 形原地区 地区利用型施設再配置プラン案	20
・ 評価の視点	22
・ 本日の検討内容	23

ワークショップの趣旨・目的

蒲郡市では、急激に変動する社会情勢に対応した公共施設の機能配置や魅力向上を図るとともに、将来に大きな負担を残さない行財政運営を実現するために、公共施設マネジメントの取り組みを進めています。

これまでに市民の皆様のご意見を伺い、「蒲郡市公共施設マネジメント基本方針」と「蒲郡市公共施設マネジメント実施計画」を策定し、今後の公共施設の整備を進めるための道筋を示しました。

その計画では、今後公共施設マネジメントを実施していくにあたって、蒲郡市が目指すべき方向性のイメージを示しました。



また、計画内では、小中学校、保育園、児童館及び公民館（地区利用型施設）の再編にあたっては、中学校区単位で住民の皆様のご意見を伺い、施設再編計画となる「地区個別計画」を策定することとしています。

市は、皆様のご意見を参考に形原地区の「地区個別計画」を策定し、施設の再配置を進めることで、“住んでよかった”“住み続けたい”と思えるような誇りと愛着を持てるまちづくりを目指します。

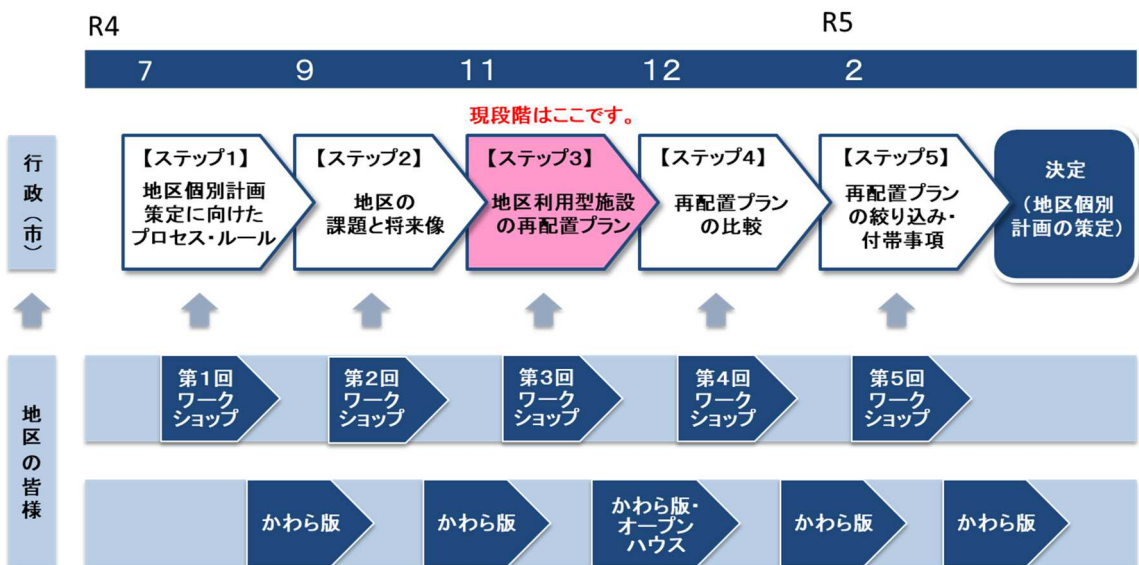
進め方とスケジュール

1 検討のステップ

市は、ワークショップ等で得られた成果をもとに、「地区個別計画」の策定に向けて次の5つのステップに分けて、段階的に検討を行います。

- ステップ1** ワークショップ等を通じ、地区個別計画をどのような手順で策定するか確認します。
- ステップ2** 地区にどのような課題があるか確認して問題意識を共有します。
- ステップ3** 課題解決に向けた方策について共有し、複数の再配置プランを検討します。更に、複数の再配置プランを比較するための評価の視点について検討します。
- ステップ4** 複数の再配置プランをステップ3で検討した視点に基づき評価し比較します。
- ステップ5** 再配置プランを絞り込むとともに、運営面での工夫等の付帯事項について整理します。

2 スケジュール（予定）



3 コミュニケーション

「地区個別計画」の策定に向けた検討では、地区の皆様と様々なコミュニケーションを進めていきます。

- ・ ワークショップ
- ・ オープンハウス（パネル展示型説明会）
- ・ かわらばん



【オープンハウス（パネル展示型説明会）】

地区の住民の皆様が集まる施設などでパネルを利用し、ワークショップでのご意見や検討された再配置プランなどの内容を広報します。

どなたでも立寄ることができ、住民の皆様からワークショップで検討されている内容についてのご意見をいただきます。

今年度も新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、開催を予定しています。

【かわらばん】

地区内の各世帯に配布するチラシです。各回のワークショップ終了後、広報がまごおりとともに配布を行います。ワークショップでのご意見や検討された再配置プランなどをお知らせするとともに、ワークショップで検討されている内容についてのご意見を募集します。

4 ワークショップの概要

- ワークショップは、令和5年2月までに5回開催します。
- 原則として土曜日・日曜日に開催します。
- 会場は、原則として地区内の学校または公民館とします。
- 事務局は、蒲郡市総務部公共施設マネジメント課が担当します。
- ワークショップには、公募でご応募いただいた方が参加します。
- 同じ参加者に継続してご参加いただき、議論を深めていきます。
- ワークショップでは、参加者の皆様にグループ討議で自由にご議論いただきます。
- 一般の傍聴者や報道関係者が会議を傍聴することができます。

5 ワークショップの進め方

- グループ討議の運営では、円滑な議論のため、司会進行を第三者的立場のファシリテーターがお手伝いします。
- ワークショップでは、グループごとの議論を中心に進め、各回ワークショップの最後に各グループの議論の結果を発表します。
- グループ討議の議論は要点をまとめて記録します。これは個人の発言が特定されるものではありませんので、自由に前向きな議論をお願いします。
- 市に対する要望・陳情の場ではありません。
- ワークショップの様子をホームページ等で公表するなど情報発信を行います。話し合いの様子を記録する場合がありますことをご了承ください。

6 ワークショップの成果

- ワークショップでのご意見を踏まえて複数の再配置プランを評価・比較し整理します。
- 整理した内容は、市が「地区個別計画」を策定する際の基礎情報として活用します。

7 ファシリテーターのご紹介

～こんにちは。皆さんの議論を円滑に進めるために、第三者的立場から議事進行やとりまとめをお手伝いします。どうぞよろしくお願いいたします。～

なばた めぐみ
名畑 恵

NPO 法人 まちの縁側育くみ隊

ふじもり みきひと
藤森 幹人

株式会社 対話計画

かつらやま としあき
葛山 稔晃

株式会社 対話計画

いなば ひさゆき
稲葉 久之

フリーランス・ファシリテーター

しらかわ よういち
白川 陽一

Keramago Works

8

ワークショップの参加にあたって

- 話し合いに積極的に参加しましょう
- 自分の考えを率直に述べましょう
- 前向きな思考で発言しましょう
- 評論家ではなく当事者として関わりましょう
- 他の参加者の意見に耳を傾けましょう
- 気持ちよく運営できるよう協力しましょう
- 議論や運営に貢献する姿勢を讃えましょう

(必要があれば追加しましょう)

第2回ワークショップの結果概要（案）

1 課題解決に向けた視点について

1) 視点ごとの意見

① 多様な人々との交流

- 公民館は若い人たちの利用促進を図ることが必要だ。
- 公民館は多世代交流が行えるよう整備をしても、離れた地区の若者が来るとは思えない。
- 現状の公民館は利用が多く、予約をしないとすぐには使えない。
- 今はなくなったが、昔は公民館などの公共施設でお葬式などが行われていた。
- 地区集会所がバランスよく整備をされており、町内会の寄り合いなどで利用されている。
- 蒲郡市は情報発信が苦手だと感じる。

② 子育てしやすい環境づくり

- 西部子育て支援センターを併設している形原北保育園は駐車場が不足している。
- 保育園の駐車場が少ないため、親同士のコミュニケーションが減少している。駐車場にベンチを置くのは有効だと思う。
- 形原北小学校と形原北保育園は隣接しており、相互連携が必要だ。
- 双太山公園は人気の遊び場で、親子連れが多い。
- ちびっこ広場を地域が維持管理できず閉鎖されている。維持管理の仕組みや方法について地域内で共有・議論されていないのではないかと。
- 親の所得で子どもの教育に格差が生まれないよう、教育機会の充実を目指したい。

③ 子ども達の居場所づくり

- 子どもたちが自習・勉強する場所が少ない。
- 市内の子どもは幸田町や豊橋市などの図書館を利用している。
- 小学校高学年や中学生は、小さな子どもが多い場所の利用が少ない。公民館に中学生が行きたくなるような環境があるとよい。
- 部活や子ども会がなくなって小中学生の居場所が求められている。
- 親が多忙で子ども会の役員を避けるので、子ども会の存続も危うい。
- 子どもの居場所づくりも大切だが、見守る人材の確保も考える必要がある。
- 中学生が自分たちで考えて取り組む機会として、地域のお祭りや職業体験は重要だ。

④ 地域の活性化

- 地域のお祭りや行事が担い手がおらず開催できていない。伝統が途絶えてしまうことを危惧している。
- 移住してきた人がお祭りなどに参加しやすくすることで活性化につながる。
- 地域のつながり・交流のためにも、お祭りを子どもたちに伝えていく必要がある。一旦途絶えてしまうと再開するのは大変だ。
- 空き家が増えているので市の制度を活用して、移住者を呼び込んでほしい。
- 形原は住みやすい。地域の魅力を発信することで移住者は増えると思う。

⑤ 高齢者の活躍

- 男性高齢者の居場所が必要。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

- 町内会ごとに長寿会があるが、参加する人が減っている。もっとたくさんの人に参加してもらいたい。
- 高齢者は行動範囲が狭く、公民館は近所の高齢者以外は利用しづらい。地区の集会所を利用することが多いが、地区によっては集会所も遠い人がいる。

⑥ 安全・安心

- 公民館は高潮浸水想定区域にあるため、建て替えのタイミングで内陸に移すほうがよい。
- 春日通りと名鉄の交差点が危険であり、何らかの対策が必要。
- 春日通りは車のスピードが速く通学に危険を感じる。一方、通学する児童・生徒は、迅速に横断してほしい。
- 形原北保育園から三河鹿島駅までの道中は、車の往来が多く危険である。
- 通学路で危険な箇所がある。
- 車道・歩道が狭く危険な箇所があるので、整備してほしい。
- 形原地区は防犯カメラの設置を積極的に行っており、今後も推進していく予定。
- 街路樹の根上がりで歩道がデコボコになり高齢者がつまづき危険。落ち葉も近所の方が清掃されているが、市の清掃が適切な時期に行われるとよい。
- 民間企業では災害時に避難場所を提供してくれるだけでなく、商品を提供してくれるところもある。災害時には民間企業を頼ってもよい。
- 天神川の水門に砂がたまり、堤防を乗り越えることがある。堤防は老朽化している。

⑦ 利便性の向上

- 形原中学校と形原保育園の間の道は送迎時に混雑して危険。隣接するメリットはあるのでアクセスの課題解決を求めたい。
- 「車や人の動線、アクセスの視点」は大事な課題である。

⑧ 効率的な施設配置

- 形原駅前には暗く送迎時の駐車場所もなく危険。元支所の跡地利用を検討してほしい。

2) 追加すべき項目

- 地域の伝統や行事を継承する場としての役割を評価する項目を追加してほしい。
- 障がい者、外国人など社会的弱者の視点があるとよい。

2 課題解決のための具体策について

① 多様な人々との交流

- インターネットの活用、公民館のホームページの改善など、情報発信と共有の仕組みづくりを積極的に行うとよい。
- 調理施設など「つくる」場があることで、交流が生まれるのではないか。
- 公民館は利用手続きの簡略化や利用者ごとのコアタイムの設定など、気軽に利用できる仕組みづくりをするとよい。
- 公民館にカフェ、コンビニ、Wi-Fi、ドリンクバーなど、気軽に立ち寄り集まれる機能があると良い。
- 学校と地域の方々がスポーツや文化活動など一緒にできる場ができると、交流を深めることができる。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

- 公民館が利用者の希望する講座や教室を募集するなど、ニーズを把握した上で、講座づくりをすると利用促進になるのではないかな。
 - 多世代と一緒に活動できる名所をつくるとよい。
 - 地区集会所の活動メニューや駐車場の整備をし、利用促進を図る。
- ② 子育てしやすい環境づくり
- 小学校や中学校に、保育園を複合化することで親にも子にも良い影響が出るのではないかな。
 - 延長保育や低年齢児の預かりなど、保育園のサービスが充実するとよい。
 - 子育て世代の交流促進を図る場があるとよい。西部子育て支援センターで行っているランチ会を児童館などでも実施できるとよい。
 - 出産助成や保育園の入園条件の見直しなど、子育てへの支援が充実するとよい。
 - ちびっこ広場の維持管理で、高齢者など地域の人が活躍できるとよい。
 - 一色不燃物最終処分場の跡地に子どもたちが利用できる公園を作ってほしい。
- ③ 子ども達の居場所づくり
- 全天候型の屋根のある施設があるとよい。
 - 公民館や児童館に、子ども向けの講座やプログラムの充実を図る。
 - 子ども達の居場所として地区集会所をもっと活用できるとよい。
- ④ 地域の活性化
- 公民館の利用者を増やすために、一緒に作業しながら地区行事の担い手を育てる講座を開催したり、利用の規制を見直すことが必要ではないかな。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

- 伝統文化は交流が生まれやすく、小さい範囲固有の伝統も大切にしたい。ただし、伝統や祭りは新しい時代にあった形で捉えないと続いていかないのではないか。
 - 公共施設に景色の良いスポットを設ける。
 - サイクリングロードを整備すれば、安全対策にもつながる。
 - 名鉄西蒲線を観光要素として活用できないか。
 - 形原のグルメスポットと連携して活性化できないか。
 - 行政と地域が話し合える協働の場があるとよい。住民側の組織化も必要だろう。
- ⑤ 高齢者の活躍
- 物づくりや伝統の継承などを通して、お年寄りが幼児と一緒に遊ぶ状況ができるとうい。
 - ちびっこ広場、公園、花壇の維持管理や小学校に花や野菜の苗を植えるなど、高齢者が活躍できる取り組みがあるとよい。
 - 地区集会所に高齢者向けメニューが充実し、駐車場が整備されるとよい。
- ⑥ 安全・安心
- 双太山公園に全天候型施設があると災害時にも利用できる。
 - 寺社は安全な場所に建てられており、公共施設の安全性を考える上で、寺社の近くに建てることを検討するのはどうか。
- ⑦ 利便性の向上
- 保育園は車での送迎がほとんどなので、1か所に集めて駐車場を充実するとよい。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

- 施設配置は、まちから離れていても車利用を見越して駐車場を広く取れる場所にするという考え方もあるのではないか。
 - 双太山公園周辺に駐車場を整備してはどうか。
 - 形原公民館を駐車場にし、公民館は高台に移転するのはどうか。
 - 形原北小学校のグラウンドにロータリースペースがあれば形原北保育園の送迎時に転回ができる。
 - 公共施設にコンビニが併設されると利便性が高く、利用率も上がるのではないか。
 - 機能が複合化したり近接すると渋滞や利用のバッティングが生じるので、機能ごとのニーズや利用時間帯の分散などを分析する必要がある。
 - 公共施設で飲食ができるようになり、カフェやドリンクバー、地元名産が食べられるようになるとよい。
 - 空き家が増えているので、公共施設として整備するのはどうか。
 - 高齢者が公共施設や形原地区外へのアクセスにコミュニティバスを活用したい。
- ⑧ 効率的な施設配置
- 形原支所の跡地は地元の博物館、高齢者の居場所、公園、住民向け行政サービス機能などがあるとよい。

3 その他

- 新型コロナウイルス対策における公民館の利用ルールに違いがあるのはなぜか。

第2回ワークショップ ふりかえりシートご意見

1 今日の議論で良かったこと

- 中学生からお年寄りまで、いろいろな視点・考え方があり良い意見が出たと思います。
- 前回よりも話がはずんだ。
- 形原という町にとってどれだけお祭りの存在が重要なのかわかってよかった。実際、子どものころはお祭りばかりだった。そういう視点で公共施設を考えるのもありなのかと思いました。
- 前よりも具体的でした。
- 第1回目より意見が沢山出て、良かったと思います。皆さんがこれだけ形原の事を思っている事を知りました。
- 具体的な提案・意見が出て、有意義な場でした。1つずつでもいいから改善できたらいいなと思いました。
- 意見が出せないなりに、他の意見を聞いて学べたこと。
- 地域でのこまり事の話が多くでて良かった。
- 場所を分けてもらえたのは、話に集中しやすく、良かったと思う。
- 多世代が交流する為の具体的な意見がでたことが良かった。
- 民間（工場とか）の利用が話になったこと。

2 内容について言い足りなかったこと

特にご意見はありませんでした。

かわらばんなどからいただいたご意見

- 将来的に、形原地区で「こども食堂」が開催できる施設を希望します。現在の形原公民館では、調理場がないためできません。蒲郡市内では、更生保護女性会さんが「こども食堂」を行っていますので、環境が整っていれば、地区の公共施設を利用して活動していただけるのではと思っています。
- 今回福祉関係の方々は、参加されていたのでしょうか。蒲郡市役所の福祉課、蒲郡市社会福祉協議会の方々も交えての話し合いが望ましいと思いました。
- 今後の話し合いで、障がいを持った方や多国籍の方なども集えることも視野に入れていただければと思います。
- 財政が厳しいといって中途半端な施設は作らないでください。これまでもあまり利用されていない施設もあると思います。運営方法も含め、いかにしたら多く利用されるかを考えましょう。

ご質問等への回答

- 子どもの居場所づくりも大切だが、見守る人材の確保も考える必要がある。

市では、令和3年度より、地域の高齢者、学生、保護者、民間企業等の幅広い地域住民の参加により、地域全体で子どもたちの学びや成長を支える「学校を核とした地域づくり」を目指し、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う「地域学校協働活動」の取り組みを始めました。

地域学校協働活動とは、地域の方が得意分野を活かして授業のサポートに入ったり、子どもたちとふれあいながら畑で農作物を育てたりするなど、できる事をできる時に気軽に参加していただく活動です。この活動により、地域住民のつながりを深め、子どもを見守る人材が少しずつ増えていくことにつながっていくことが期待されます。

また、保護者・地域住民等と学校が“顔が見える”関係となり、地域と学校の協力体制が築かれることで、防犯、防災等の面で効果が生まれると考えています。

先行して実施している蒲郡・西浦中学校区では、地域のボランティアの方に協力いただきながら、放課後に子どもたちが様々な体験ができる場として「放課後子ども教室」が開催されています。

活動については、中学校区ごとに推進することとしており、令和4年度現在では、大塚中学校区、三谷中学校区、蒲郡中学校区、塩津中学校区、西浦中学校区で取り組まれています。形原地区についても、令和5年度に活動をスタートしていく予定です。

- 新型コロナウイルス対策における公民館の利用ルールに違いがあるのはなぜか。

市では、新型コロナウイルス対策として、「蒲郡市新型コロナウイルス感染症対応ガイドライン」を作成しており、レベルに応じて活動できることを制限するなど、市内の公民館で統一的な運用をしています。そのため、現状、各公民館において活動の違いはありません。

ただし、市内の警戒レベルは随時変更しており、レベルの引き上げ・引き下げが行われた前後には、活動できることに変化が生じます。レベルの変動があった前後に公民館をご利用いただいた際に、そのような状況が起きたのかもしれない。

今後も、新型コロナウイルス感染症の蔓延状況等を考慮し、随時運用方法を見直していく予定です。ご利用を希望される際の利用制限等については、公民館に確認するだけでなく、市のホームページでも掲載されています。そちらもあわせて、ご活用ください。

- 今回福祉関係の方々は、参加されていたのでしょうか。蒲郡市役所の福祉課、蒲郡市社会福祉協議会の方々も交えての話し合いが望ましいと思いました。（かわらばんなどからいただいたご意見）

ワークショップの参加者の募集については、多様な方々にご参加いただき多角的にご意見いただくため、広報がまごおりやホームページでの募集に加え、形原地区内の役員や学校のPTAの会合などで、事業説明及び参加依頼をさせていただきました。その中でも、福祉分野では、社会福祉協議会主催の民生委員の方たちの会合でお声がけをさせていただきました。

また、ワークショップの参加者募集にあたり、グループの議論を先導してしまう恐れがあるため、「※ 市議会議員・市職員を除く」とさせていただいております。

今後、地区内の施設配置を定める「地区個別計画」の策定後には、複合する施設における詳細な計画である「基本計画」において、施設運営者にも参加いただきながら設計におけるバリアフリーなどの配慮事項について検討していく予定です。

形原地区の課題と課題解決に向けた方策

視点の整理		課題解決に向けた方策		
視点	WSでいただいたご意見要約、地区の課題	施設の再配置を通じた解決策としていただいたご意見	再配置を通じた解決策	運営の工夫による解決策としていただいたご意見
① 多様な人々との交流	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響もあり、人とのつながりが希薄になってきていることが心配だ。 ・公民館は若い人たちの利用促進を図ることが必要だ。 ・現在の施設は、利用制限や予約の取りにくさがあり、使いにくいと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校と保育園が隣接すると、子ども同士の交流や親の送迎、災害時の避難などメリットがある。 ・児童館と公民館が集約すると、子どもと高齢者の交流が生まれてよい。 ・調理施設など「つくる」場があることで、交流が生まれるのではないかと。 ・障害のある方、外国の方の支援の機能が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ①多様な方々の交流の場の創出 ②施設の複合化 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と地域の方々がスポーツや文化活動など一緒にできる場ができると、交流を深めることができる。 ・公民館が利用者に希望する講座や教室を募集するなど、ニーズを把握した上で、講座づくりをすると利用促進になるのではないかと。 ・ネットの活用、公民館のホームページ改善など、情報発信と共有の仕組みづくりを積極的に行うとよい。 ・公民館は利用手続きの簡略化や利用者ごとのコアタイムの設定など、気軽に利用できる仕組みづくりをするとよい。
② 子育てしやすい環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園の駐車場が少ないため、送迎時の親同士のコミュニケーションも減っている。駐車場にベンチを置くのは有効だと思う。 ・0歳児保育のニーズは高いが、定員いっぱいでは預けられない。新たな受け入れ先の確保や定員を増やす必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校や中学校に、保育園を複合することで親にも子にもいい影響が出るのではないかと。 ・延長保育や低年齢児保育など、保育園のサービスが充実するとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ③子育て関連施設の集合 ④保育機能の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代の交流促進を図る場があるとよい。西部子育て支援センターでやっているランチ会を児童館などで実施できるとよい。 ・ちびっこ広場の維持管理で、高齢者など地域の人が活躍できるとよい。
③ 子ども達の居場所づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・中高生にとって、児童館は小さな子どもが多く利用しづらい。 ・公民館は機能面で若者ニーズを満たしておらず、利用しづらい。 ・子どもたちが自習・勉強する場所が少ない。 ・子ども会が消滅してしまった地区もあるが、工夫して継続している地区もある。なんとか継続したい。 ・子ども会や部活動がなくなっているため、小中学生の居場所がほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校高学年や中学生は、小さな子どもが多い場所にはあまり行かない。公民館に中学生が行きたくなるような環境があるとよい。 ・中高生が気軽に使いやすい公共施設がほしい。 ・公民館にカフェ、コンビニ、Wi-Fi、ドリンクバーなど、気軽に立ち寄り集まれる機能があるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑤子どもの居場所の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館や児童館に、子ども向けプログラムの充実を図るとよい。 ・子どもの居場所づくりも大切だが、見守る人材の確保も考えている必要がある。 ・中学生が自分たちで考えて取り組む機会として、地域のお祭りや職業体験は重要だ。
④ 地域の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のお祭りや行事が担い手がおらず開催できていない。伝統が途切れてしまうことを危惧している。 ・今住んでいる若者が、将来も住み続けたいと思うような魅力あるまちづくりをしてほしい。 ・若い世代が移住したくなるようなまちづくりを進めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のつながり・交流するためにも、お祭りを子ども達に伝えていく必要がある。一旦途絶えてしまうと再開するのは大変。 ・スポーツ利用ができる広い施設がほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑥地域コミュニティの活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館利用者が増加すると、新たな機能が併設されるなど相乗効果がうまれるのではないかと。 ・公民館の利用者を増やすため、一緒に作業しながら地区行事の担い手を育てる講座を開催したり、利用の規制を見直すことが必要ではないかと。 ・協力的な人が多い地域柄であるため、学校を含めた情報共有を密にすることで活動を広げ、地域の人々の活躍の場を作りたい。
⑤ 高齢者の活躍	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館は高齢者にとって遠く、利用しにくい。 ・男性高齢者の居場所が必要。 ・形原のお年寄りはとても元気である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の身近に居場所がほしい。 ・物づくりや伝統の継承などを通して、お年寄りが幼児と一緒に遊ぶ状況ができるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑦高齢者が活躍できる場所の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・ちびっこ広場、公園、花壇の維持管理や小学校に花や野菜を植えるなど、高齢者が活躍できる取組があるとよい。
⑥ 安全・安心	<ul style="list-style-type: none"> ・形原南保育園は災害時に心配な面がある。 ・形原保育園、形原北保育園は施設が古く、狭い。 ・小学校の老朽化が心配だ。 ・公民館は高潮浸水想定区域にあるため、建て替えのタイミングで内陸に移す方がよい。 ・通学路で危険な箇所がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・双太山公園に全天候型施設があると、災害時にも利用できる。 ・寺社は安全な場所に建てられており、公共施設の安全性を考える上で、寺社の近くに建てることを検討するのはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑧自然災害からの安全確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区の防災無線は、雑音が多く聞こえづらい。
⑦ 利便性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・どの保育園も駐車場が狭くて足りない。 ・保育園へのアクセスが悪い。 ・どの施設も駐車場が少なく、利用しづらい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園は車で送迎がほとんどなので、1か所に集めて駐車場を充実するとよい。 ・施設配置は、まちから離れていても車利用を見越して駐車場を広く取れる場所にするという考えもあるのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑨十分な駐車スペースの確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント時などはバス送迎などの工夫もできないかと。 ・高齢者が公共施設や形原地区外へのアクセスにコミュニティバスを活用したい。
⑧ 効率的な施設配置	<ul style="list-style-type: none"> ・地区の人口バランスを考慮した施設配置にしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの数が減っていくことを考えると、保育園を集約してもよいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑩施設総量の縮減 	
その他				

再配置プランの考え方

再配置を通じた課題の解決策として整理した10項目を用いて、それぞれコンセプト（特徴）の異なるA～Dの4つの再配置プラン案を作成しました。

すべての課題を満足に解決する案を作成することは困難ですが、複数のプランを比較しながら、より多くの課題を解決する再配置プランはどういったものか、検討していく必要があります。

図：再配置を通じた解決策と再配置プラン案の関係性

再配置を通じた解決策	再配置プラン案			
	A案	B案	C案	D案
① 多様な方々の交流の場の創出	○	○	●	○
② 施設の複合化	○	○	○	○
③ 子育て関連施設の集合		●	○	
④ 保育機能の充実	○			●
⑤ 子どもの居場所の確保	○	○	○	
⑥ 地域コミュニティの活性化	○	○	○	○
⑦ 高齢者が活躍できる場所の整備	○	○	○	○
⑧ 自然災害からの安全確保	○	○	○	○
⑨ 十分な駐車スペースの確保	●		○	○
⑩ 施設総量の縮減	○	○	○	○

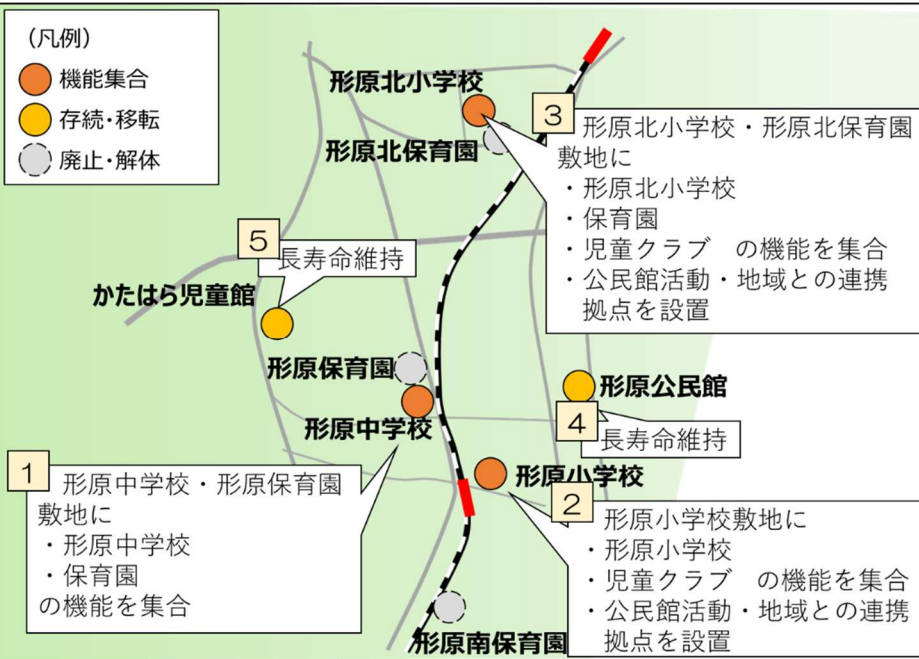
※ 各プランを作成するために用いた解決策を○、その中でも特に有効だと考えられる解決策を●としています。

A

保育園への利便性を確保するプラン

【重点を置いた解決策】⑨

- 1 現在の形原中学校・形原保育園の敷地に、形原中学校、保育園の機能を集合します。
- 2 現在の形原小学校の敷地に、形原小学校、児童クラブの機能を集合、校内に公民館活動・地域との連携拠点を設置します。
- 3 現在の形原北小学校・形原北保育園の敷地に、形原北小学校、保育園、児童クラブの機能を集合、校内に公民館活動・地域との連携拠点を設置します。
- 4 形原公民館は、現地で長寿命化し維持していきます。
- 5 かたはら児童館は、現地で長寿命化し維持していきます。



特徴

- 小学校、中学校の敷地に保育園が集合することで、保育園のお迎え時の駐車場を確保できる。
- 形原中学校・形原保育園敷地に、中学校と保育園が集合することで、異年齢間の交流や災害時の連携に取り組みやすい。

【関連する解決策】①②④⑤⑥⑦⑧⑨⑩

課題

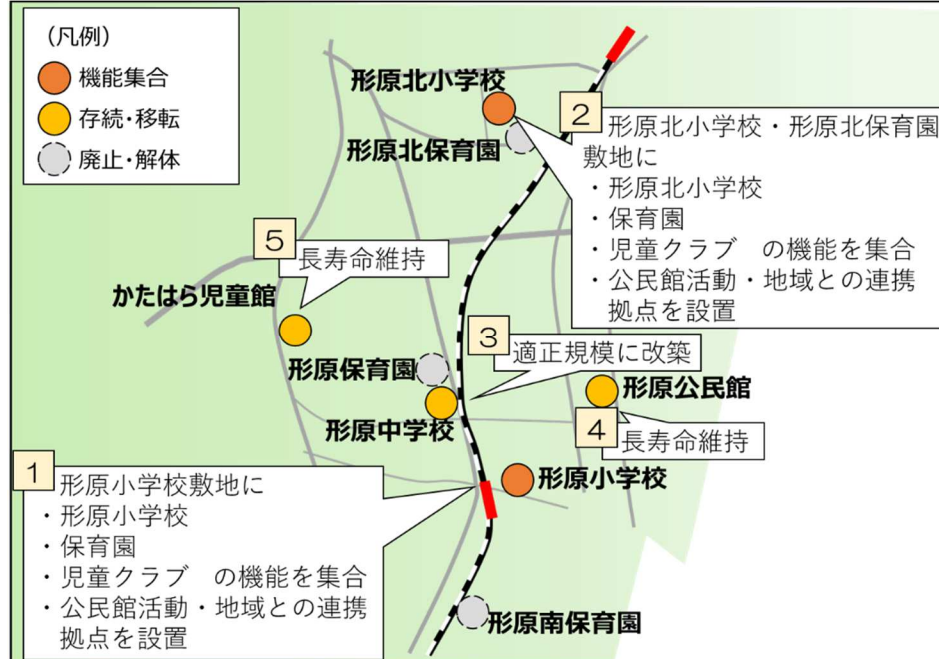
- 形原中学校敷地の保育園と形原小学校敷地の児童クラブが離れてしまうため、お迎えの負担が大きい。

B

子どもの交流の充実を図るプラン

【重点を置いた解決策】③

- 1 現在の形原小学校の敷地に、形原小学校、保育園、児童クラブの機能を集合、校内に公民館活動・地域との連携拠点を設置します。
- 2 現在の形原北小学校・形原北保育園の敷地に、形原北小学校、保育園、児童クラブの機能を集合、校内に公民館活動・地域との連携拠点を設置します。
- 3 形原中学校は、適正規模に改築します。
- 4 形原公民館は、現地で長寿命化し維持していきます。
- 5 かたはら児童館は、現地で長寿命化し維持していきます。



特徴

- 小学校、保育園が集合することで、異なる年齢間での交流が期待できる。
- 小学校と保育園が集合することで、お迎えの負担が軽減される。

【関連する解決策】①②③⑤⑥⑦⑧⑩

課題

- 形原小学校敷地では、十分な駐車場ができない。

〈小中学校規模適正化方針〉

【標準規模・標準配置】

	標準規模	標準配置	
		通学距離	通学時間
小学校	12~18 学級	概ね 4 km	1 時間以内
中学校	9~18 学級	概ね 6 km	1 時間以内

→市の標準規模を下回る規模の学校は適正化に向けた検討を行う

【地区内の適正化検討対象校とその対応策】

○形原小学校

[令和2年] 普通学級数：12 学級 児童数：338 人
[推計(令和22年)] 普通学級数：12 学級 児童数：238 人

○形原北小学校

[令和2年] 普通学級数：16 学級 児童数：448 人
[推計(令和22年)] 普通学級数：12 学級 児童数：314 人

○形原中学校

[令和2年] 普通学級数：13 学級 児童数：433 人
[推計(令和22年)] 普通学級数：9 学級 児童数：290 人

→ 令和22年には、3校とも蒲郡市の小・中学校の標準規模内と推計されています。

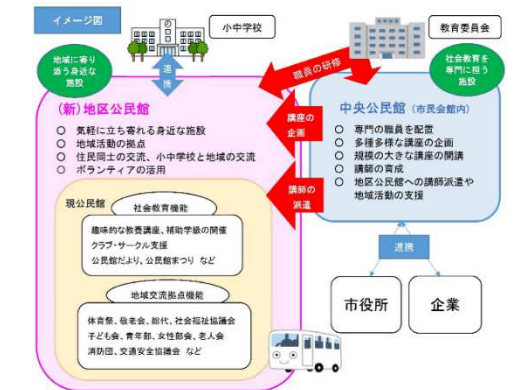
〈公民館グランドデザイン〉

【目指すべき公民館の姿】

公民館の機能を2つに分け、それぞれの機能を十分に発揮させます。

- ① 社会教育機能(学習機能)を果たす「中央公民館」
- ② 地域交流拠点機能(地域と人のつながり)を果たす「地区公民館」

※ 地区公民館建替の際には可能な限り小学校との複合化を検討する。



【形原地区の公民館の配置に関する考え方】

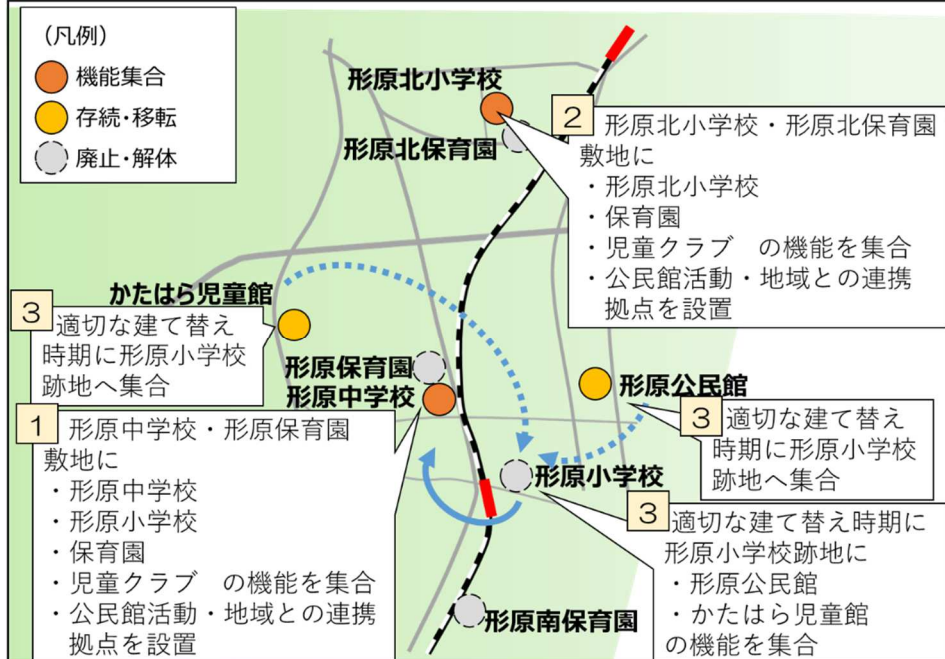
地区内に小学校は形原小学校と形原北小学校の2校がありますが、地区コミュニティの分断を避けるため、この地区に配置する公民館の数は1館が相当とします。

C

多世代交流の拠点をつくるプラン

【重点を置いた解決策】①

- 現在の形原中学校・形原保育園の敷地に、形原中学校、形原小学校、保育園、児童クラブの機能を集め、校内に公民館活動・地域との連携拠点を設置します。
- 現在の形原北小学校・形原北保育園の敷地に、形原北小学校、保育園、児童クラブの機能を集め、校内に公民館活動・地域との連携拠点を設置します。
- 形原公民館、かたはら児童館は、適切な建て替え時期に形原小学校跡地へ集合します。



特徴

- 形原中学校・形原保育園敷地に、小中学校、保育園、児童クラブが集合することで、多世代交流の拠点が整備される。
- 将来的に公民館、児童館が集合することで、高齢者と子どもの交流拠点となる。

【関連する解決策】①②③⑤⑥⑦⑧⑨⑩

課題

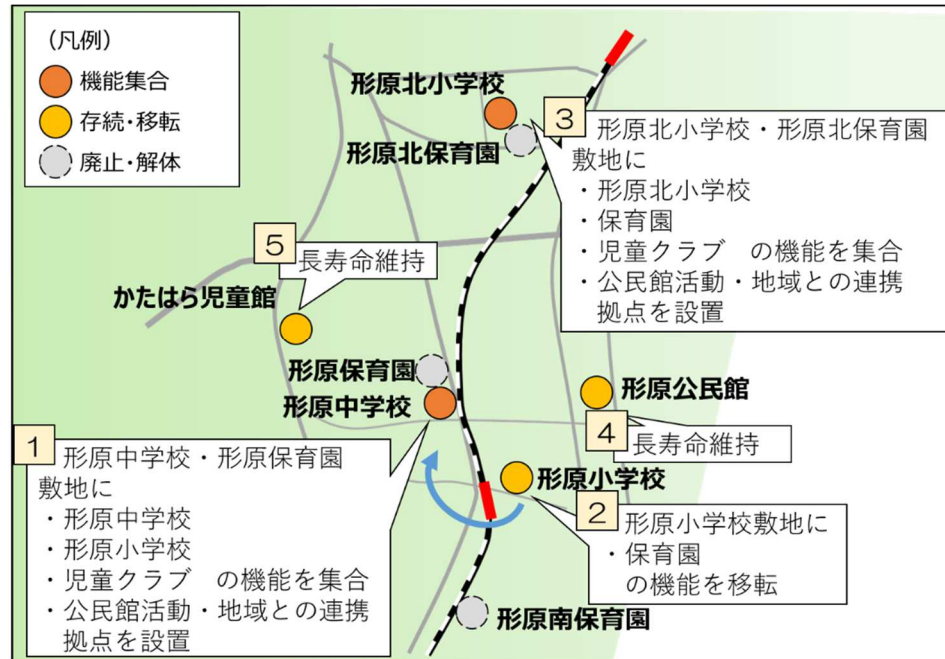
- 現状の教育形態では、形原北小学校に通う児童は、中学校入学時から合流することになる。

D

保育環境の充実を図るプラン

【重点を置いた解決策】④

- 現在の形原中学校・形原保育園の敷地に、形原中学校、形原小学校、児童クラブの機能を集め、校内に公民館活動・地域との連携拠点を設置します。
- 現在の形原小学校敷地に、保育園の機能を移転します。
- 現在の形原北小学校・形原北保育園の敷地に、形原北小学校、保育園、児童クラブの機能を集め、校内に公民館活動・地域との連携拠点を設置します。
- 形原公民館は、現地で長寿命化し維持していきます。
- かたはら児童館は、現地で長寿命化し維持していきます。



特徴

- 形原小学校移転後の跡地を活用でき、駐車場や園庭などに余裕がある使いやすい保育園を整備できる。
- 形原中学校・形原保育園敷地で、中学校、小学校が集合することで、合同での行事実施など教育環境が充実する。

【関連する解決策】①②④⑥⑦⑧⑨⑩

課題

- 現状の教育形態では、形原北小学校に通う児童は、中学校入学時から合流することになる。
- 児童クラブと保育園が離れるため、お迎えの負担が大きい。

〈保育園グランドデザイン〉

【基本的な考え方】

- 各地区、各保育園で統一的な保育サービス（低年齢児保育・延長保育）を実施できるよう適正配置について検討します。
- 基準とする規模は、一人一人のきめ細やかな保育を実現しつつ、健全な成長・育ちの観点から集団保育を保證できる保育園の規模（概ね80～130人程度）とします。

【形原中学校区における考え方】

○ 将来ニーズの予想

	0-5歳児計
2040年時点中学校区内保育園等入所数予想(①+②)	250
2040年時点中学校区内居住児童の入所ニーズ予想①	310
2040年時点他中学校区の民間園への入所予想②	▲60

○ 今後のあり方

- 現在の公立保育園を3園から2園に集約します。2040年時点の中学校区内保育園等入所数予想は250人程度であり、仮に2園に集約した場合でも、1園当たり125人規模となり、基準とする規模内です。
- 保育園の集約を行うことで、効率的なクラス編成を行うことができ、保育サービスの充実につなげることができます。

（参考）小中一貫教育の導入について

〈蒲郡市立小中学校における小中一貫教育の推進について〉

【小中一貫教育の導入の方向性】

子どもたちの教育を地域とともに考え、地域の特色を生かした教育課程を柱とし、小中学校が目指す子どもの姿を共有しながら、すべての小中学校区において、地域とともに義務教育の9年間を通じた教育活動を行っていく。

【小中一貫教育の形態】

○ 義務教育学校

一人の校長の下に一つの教職員集団が9年間一貫した教育課程を編成し実施する。

○ 併設型小学校・中学校

設置者が同じ学校（小学校、中学校）が9年間一貫した教育課程を編成し実施。同一敷地内あるいは隣接する敷地内の学校が連携しながら小中一貫教育を進める場合（施設一体型）と、離れた敷地に設置された小中学校が連携して教育活動を実施する場合（施設分離型）がある。

○ 連携型小学校・中学校

設置者（教育委員会等）が異なる学校が連携して一貫した教育を行う学校。（例 市町村立小学校）

評価の視点

- 第1回・第2回のワークショップでいただいたご意見をもとに、再配置プランを検討していくための8つの視点を取りまとめました。今後、複数の再配置プラン案を比較する際の評価の視点として活用していきます。

視 点	内 容
① 多様な人々との交流	<ul style="list-style-type: none"> ● 多世代交流ができる場は整備されているか。 ● 若い世代や外国人が集まる場所は整備されているか。
② 子育てしやすい環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 低年齢児保育や延長保育など保育サービスは向上するか。
③ 子ども達の居場所づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 子ども達の居場所・遊び場は確保されているか。 ● 子ども達の交流機会は確保されているか。
④ 地域の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の伝統継承や担い手の育成に寄与する施設配置となっているか。 ● 地域への愛着を育む施設配置となっているか。
⑤ 高齢者の活躍	<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者の居場所が確保されているか。 ● 高齢者のスキルを発揮できるような施設配置となっているか。
⑥ 安全・安心	<ul style="list-style-type: none"> ● 交通安全に配慮した施設配置となっているか。 ● 災害時の安全性は確保できているか。
⑦ 利便性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ● 駐車スペースは確保されているか。
⑧ 効率的な施設配置	<ul style="list-style-type: none"> ● 維持更新費用・運営費用は縮減されているか。

本日の検討内容

- ① 前回までのご意見とそれぞれの施設のグランドデザインをもとに、事務局で再配置プラン案を作成しました。再配置プラン案について確認したいこと、期待できること、不安なことはありますか。また、各々の案についてさらに良くするためのご意見はありますか。

- ② 今後これらの再配置プラン案を評価していきますが、その評価の指標として、皆様のご意見に基づく8つの視点を活用していきます。それぞれの視点の内容について、気になることやご意見はありますか。

次回ワークショップのご案内

「第4回形原地区まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ」を以下のとおり開催いたしますので、ご参加下さいますようお願いいたします。

1 日時

令和4年12月25日（日）

午後1時30分～午後4時30分（受付開始時刻 午後1時15分）

2 お願い

- ご欠席の場合は、12月16日（金）までに事務局へご連絡ください。
- 次回ワークショップの資料を郵送で事前に配布いたしますので、届きましたら資料に不足がないかご確認ください。

【ワークショップ事務局】

蒲郡市総務部公共施設マネジメント課

担 当：上田・尾崎・上醉尾

電 話：0533-66-1214

ファクス：0533-66-1183

E-mail：k-mane@city.gamagori.lg.jp